

学位論文審査の結果の要旨

小林 翔平

本研究では、気候変動下におけるウミガメの性比に関する生理生態学的解析を通して、保全策を検討したものである。その結果、孵卵温度が出生する雌雄比に影響を与えることに加えて、胚の死亡率や孵化日数並びに幼体の運動能力や成長率等に密接に関係することを明らかにした。さらに、高温での孵卵がウミガメ鱗板の配列奇形を誘発する可能性も示した。これらの研究成果は、特にオスが来遊する地域を重点的保全海域化することにより、性比のメスへの歪曲化を間接的に軽減することを提唱した。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

小林 翔平

最終試験は、平成30年1月11日に東京農工大学農学部において、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。

その結果、本審査委員会は小林翔平君が自立した研究者として研究活動を行う学力と見識を備えており、博士(農学)の学位を授与されるに十分な資格を有するものと判断されたので、最終試験を合格と判定した。